

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club



文化財課 ☎27-8604
FAX 22-3811

井戸事情

昨年8・9月に発掘調査をした田原城跡の腰曲輪で井戸を見つけた。この井戸は赤く焼けた土管のようなものを何段にも積み上げて井戸枠としています。赤く焼けた井戸枠は常滑焼で、確認できた井戸の深さは3m以上でした。この場所は田原城の江戸時代初めの絵図にも記載されており、昔からこの付近に井戸があったことが分かっています。

井戸は地面に穴を掘り、井戸底に湧き出た地下水をためておくところ



●発掘調査で見つかった井戸

です。人々は、このためられた水を汲み取り、さまざまな営みに使用していました。そのため、井戸は地下水が豊富な地域で、地下水が湧き出る深さまで掘っていく必要があります。機械のない時代では手掘りの必要があり、かなり危険な労働作業でした。

現代では、上水道の発展によって井戸を見る機会が減りましたが、今回発掘調査をした場所以外にも、田原城跡で石組の井戸を実際に見ることが出来る場所があります。それは、

田原市博物館の駐車場から二の丸にある田原市博物館に行く途中で階段を上ってすぐのところでは、井戸は一度掘ってしまえば、地下水が枯れるまで、繰り返し使用することが出来ます。そのため、昔に掘られた井戸が今でも大事にされ残っていることがあります。

井戸底の水を汲み上げる方法は、時代によって変化がありました。昔は釣瓶桶をひもで垂らして、水を汲み上げていました。その後、屋根が葺かれ、屋根にかけた滑車を使用して釣瓶桶を吊り上げる車井戸になり、手押しポンプが使われるようになっていきます。そして、打ち込み井戸が掘られるようになり、電動ポンプの使用が始まりました。

■人々の暮らしを支えた井戸

上水道が発展するまで井戸は、人々が生きていくためにとても大切な存在でした。そのため、どの集落でも井戸がありました。すべての家の敷地内にあったわけではありませんでした。

渥美半島の中でも水資源の乏しかった太平洋沿岸の集落では、住ん



●田原城跡の堀底にある井戸

でいる場所によって、共同で使用する井戸が多い地域、個人で使用する井戸が多い地域と違いがありました。これは、地下水までの深さが関係しています。地下水までの深さが深い台地上の地域では共同井戸、比較的地下水まで浅い地域では個人井戸が多かったそうです。真下に深く掘る作業は大変だったのでしよう。

現代では数が少なくなった井戸ですが、災害時などの緊急時の使用が検討され、そのあり方について見直しがされてきています。

井戸は先人が苦勞をして、水を手に入れた工夫と知恵を学ぶことのできる証拠でもあるのです。

(清水)